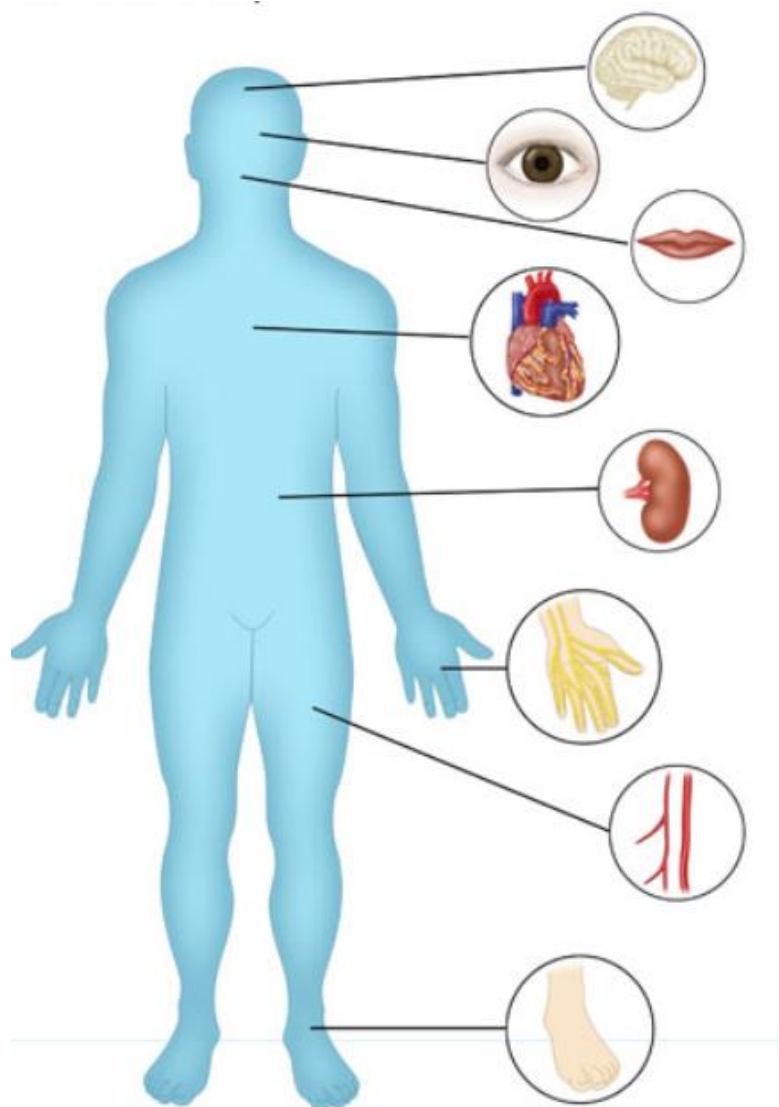


# 糖尿病薬・SGLT2 阻害剤の死亡率減少効果について

英アストラゼネカ社は、世界の40万例超の2型糖尿病患者において、SGLT2 阻害剤による治療と他の血糖降下薬による治療とを比較する大規模試験「CVD-REAL 2」の解析結果を発表し、「the Journal of the American College of Cardiology」に掲載しました。



SGLT2 阻害剤による治療は、他の 2 型糖尿病治療薬による治療と比較して、全死亡率を 49%、心不全による入院率を 36%、心筋梗塞の発症率を 19%、脳卒中の発症率を 32%（全て  $p \leq 0.001$ ）減少。



一般に、2型糖尿病患者は、心筋梗塞あるいは脳梗塞の高いリスクと、2倍から5倍の心不全のリスクを有しています。さらに、心不全を発症すると、心血管死および全死亡のリスクは60～80%上昇します。

